

遺族に賠償命令 残る疑問

07年、東海道線共和駅（愛知県大府市）で線路内に入り、男性が列車にはねられて亡くなる事故がありました。また、最近では10月1日に横浜線で発生した踏切で女性が亡くなる事故がありました。しかし、マスコミ報道や投稿等をおして、この不幸な事故に対する見方が大きく異なっています。

組合員のみなさん 国労・ユニオン組合員のみなさん

共和駅の事故は、認知症の男性が犠牲になりましたが、男性は療養中であつたものの家族がほんの少しだけ目を離したなかで起きてしまいました。J R 東海は法律に基づいて裁判で損害賠償を請求し、裁判所が介護をしていた家族に支払いをするよう命じていますので覚えていると思います。

他方、横浜線の事故は踏切内で倒れている男性を助けようと女性が、お父さんの制止を振り切って「ひかれちゃう」と言って遮断機をくぐり、踏切内に入り男性を救助しました。しかし、ご自身は進入してきた列車にはねられて亡くなられてしまいました。連日マスコミで報じられていますので覚えていると思います。

みなさんは、この二つの不幸な事故を、どのように感じますか？

J R 東海はマスコミの質問に対して「個別の事情はいろいろおありかもしれませんが、線路に立ち入り、電車に衝突して損害が発生したのは事実です。損害については、原則としてお支払いしていただいています。それは、自殺であるなしに関わらず、同じです」、と答えたと報道されています。

他方、J R 東日本は事故に対する考え方を明らかにしていませんが、事故現場の踏切にJ R 東日本が献花台を設け、人々が絶え間なく献花に訪れているそうです。また、賛否があるのは事実ですが自治体などが、ご家族に感謝状を送ることを検討しているとも報道されています。

J R 各社とも、特に事故防止と安全確立、そして労働条件などの課題を抱えながら日々、苦勞しています。それは、J R 東海も同じです。いずれにしてもJ R 東海とJ R 東日本の対応に大きな違いと疑問を感じずにはられません。

ご家族にお悔やみ申しあげ、お二人のご冥福を心からお祈り申しあげます。